

講演会のご案内

赤松小三郎と坂本龍馬・中浜万次郎

赤松小三郎 ～幕末に誰よりも早く日本近代化のグランドデザインを描いた男～



赤松小三郎 上田市立博物館蔵

幕末、信州上田藩士赤松小三郎は、京都で開いた洋学塾などで多くの英才を育てるとともに、わが国の近代化に向けてのグランドデザインを描きその実現に力を尽くしました。

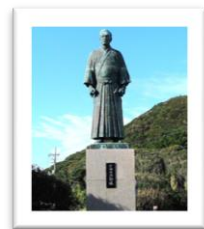
残念ながら、赤松は、1867年（慶応3年）37歳で志半ばにして暗殺されましたが、その先進的な政治思想と優れた洋学の教えは日本の近代化に大きく貢献しました。

当研究会では、今回、歴史家で、赤松小三郎の研究に定評のある東洋大学岩下哲典教授をお迎えし、赤松小三郎と坂本龍馬・中浜万次郎についてお話をお伺いします。

赤松小三郎のみならず、広く幕末史に関心

をお持ちの多くの皆様のご参加を心からお待ち申し上げます。

2019
9月28日
(土)



日時：2019年9月28日(土) 講演 14:00～16:30 (受付開始 13:30)

会場：日比谷図書文化館 地下1階コンベンションホール (裏面案内図ご参照)

参加費：1,000円 (当日会場受付にて申し受けます)

対象：幕末の歴史にご興味ある方であれば、どなたでも大歓迎です

定員：200名 (先着順 お早めにお申し込みください)

主催：上田高等学校関東同窓会赤松小三郎研究会

講師 岩下哲典 東洋大学教授



略歴

1962年（昭和37年）長野県塩尻市北小野（「たのめの里」）に生まれる。
青山学院大学大学院文学研究科博士後期課程単位修得。博士（歴史学）
東洋大学文学部史学科・大学院文学研究科史学専攻教授。洋学史研究会副会長。

主な著作：『江戸無血開城』（吉川弘文館）、『幕末維新の古文書』（柏書房）、『東アジアの秩序を考える』（春風社）、『坂本龍馬の世界認識』（藤原書店）など多数。

講師からひとこと

赤松小三郎の西洋民主主義の理解は、当時最先端だったと思います。それゆえに、権力を独占したい薩摩藩は暗殺という暴挙に出たのでしょう。

龍馬は赤松構想を実現しようとして付け狙われたのだと思います。

万次郎は、赤松や龍馬があこがれたアメリカから帰国して情報を伝えました。

3人の思想的関連性を探ってみたいと思います。

お申込は

赤松小三郎研究会事務局（事前のお申し込みをお願いいたします）

Eメール：kannazuki-6318@kxb.biglobe.ne.jp

電話：070-2685-2384（事務局 小山）